

テーマ説明：聴覚障害者支援

「聴覚障害者支援」

人間にとって第一言語は、考え方や生き方の基礎となる大切な要素です。
現在日本では6万人が「手話」を「第一言語」として使用しています。
しかし「手話」は「言語」として十分に認知されていません。

「手話は言語」

日本財団は、「手話」が「言語」として音声言語と同等に扱われる社会の実現を目指します。

ろう者が「手話」で教育を受け、「手話」で生活できる環境を整備することにより、
ろう者がそれぞれに持つ能力を発揮できる社会の実現を目指して支援を行っています。

支援実績 ※2021年度

言語としての手話の認知

法的な認知

- 「手話言語法」の制定に向けた活動
- ロビー活動、フォーラム開催

学術的な認知

- 「手話言語学」研究の推進
- 手話言語学者の育成

手話による教育の充実

- ろう学校での手話教育の提言
- 手話ができる教員の育成
- 大学進学に対応した学習塾の提供

当事者の職種拡大

- 聴覚障害者へのキャリアサポート
- ろう当事者に適した職種の拡大
- ろう者の留学支援

生活の質の向上

- 当事者又は手話ができるソーシャルワーカーの育成、派遣
- 学術手話通訳者の育成

一般への手話の普及

- 手話パフォーマンス甲子園

質疑応答